

研究機関名：旭川医科大学

承認番号	25146
課題名	当院における肺切除術後インターシード®被覆に関する有用性の検討
研究期間	2026 年 1 月 26 日（実施許可日） ～ 2027 年 12 月 31 日
研究の対象	2020 年 1 月 1 日から 2026 年 12 月 31 日までの期間に当院で肺癌に関する手術が施行された患者さんが対象です。
利用する試料・情報の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 診療情報（詳細：年齢、性別、身長、体重、喫煙指数、既往歴、基礎疾患、手術記録、検査結果等） <input type="checkbox"/> 手術、検査等で採取した組織（対象臓器等名： ） <input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> その他（手術で摘出した組織： ） 利用予定日（開始日 実施許可日から 1 ヶ月後）
試料・情報の管理について責任を有する者	旭川医科大学 学長 西川 祐司
研究の意義、目的	肺切除術後の気漏は最も頻度の高い合併症の一つであり、胸腔ドレーン留置期間の延長、入院期間の延長、医療費の増大に直結します。ネオベールシートは一定の気漏抑制効果が知られていますが、胸腔内癒着の形成や再手術時の剥離の難しさが指摘されています。一方、インターシード®は婦人科・消化管領域では広く使用されている吸収性癒着防止材であり、胸部外科領域でも肺切除術後の癒着抑制や気漏対策としての応用が近年報告されています。しかし、肺癌に対する臨床的肺切除後の使用経験は限定的です。本研究により、インターシード®を併用した被覆法の安全性と有効性が明らかとなれば、術後管理の改善や標準的な被覆法の確立につながると期待されます。
研究の方法	術後合併症である気漏の発生率を主要評価項目とします。副次評価項目は、術後気漏の持続期間、胸腔ドレーン留置期間、術後在院日数、そのほかの術後合併症との関連性とします。
その他	特になし
お問い合わせ先	<p>本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。</p> <p>照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：</p> <p>所在地：旭川市緑が丘東 2 条 1 丁目 1 番 1 号</p> <p>電話：0166-69-3290</p> <p>研究責任者：旭川医科大学病院 外科（血管・呼吸・腫瘍）医員 吉野流世</p>